



訓練の積み重ねが大事

～第4ブロック合同災害救護訓練を実施～

6月13日、和歌山市の片男波海岸にて、巨大地震と津波に備えた大規模な合同災害救護訓練を行いました。

この訓練には、被災者の救護や支援に当たるため、日本赤十字社第4ブロック(近畿2府4県)の支部や赤十字病院をはじめ、赤十字奉仕団や防災ボランティア、警察や消防など、およそ600人が参加。

紀伊半島沖を震源とするマグニチュード9.1の巨大地震が発生したという想定で始まり、近畿2府4県の救護班が集結。救護所の開設・運営訓練、災害対策本部内の薬剤師チームが各救護所の傷病者に必要な医薬品の種類と量を確認し配分する薬剤コーディネート訓練、家族を亡くした被災者などへのこころのケア訓練のほか、効率的な救護を図るため、救護班や救護所にいる傷病者などの情報を共有する広域災害救急医療情報システム(EMIS)を使った入力訓練を行いました。

また赤十字奉仕団や防災ボランティアによるボランティアセンター支援訓練では、ボランティアセンターの立ち上げやボランティアの受入れ、車両誘導や安否調査などを行いました。

予想外のことも多くありましたが、実際の災害ではこれ以上の混乱が予想されます。しっかり対応できるようこれからも災害への備えに努めてまいります。



救護所前にあられる傷病者の治療優先度を決めるトリアージ訓練に取り組む赤十字救護員



各救護所との薬剤のやり取りを記録する対策本部内の薬剤師チーム



傷病者役の看護学生がメイク中。ただ演じるだけでなくその傷病について事前に学習し参加



家族を亡くした被災者へのこころのケア訓練に取り組む看護師

